

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● E-mail: ga-tpc@ginza.co.jp

● このNEWSLETTERは、銀座通連合会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●

プロムナード銀座2004・催事期間中に、2つのシンポジウムが行われました。いずれも、銀座のまちづくりに対する貴重な提言にあふれた内容でした。そんな提言を受けて、銀座がどうそれを検討し実現するのか。そのこ

とが問われています。

このニュースレター7号では、まずはそのうちの1つのシンポジウムの内容を簡単に紹介します。



街づくりシンポジウム 「世界都市のなかの銀座」

— 銀座のアイデンティティを生かしたまちづくりを —



10月21日にはシンポジウム「世界都市のなかの銀座」（ヤマハホール）が行われました。

基調講演のリシャル・コラスさん（シャネル株式会社代表取締役社長）は、「国際都市としての銀座の魅力」と題し、銀座の歴史をひもといたうえで、パリをはじめとした世界の都市と銀座とのまちづくりの違い、そのなかでのプレステージ・ブランドとまちとの関係などを語り、銀座とシャネルの共通点として「伝統の継承+モダニティ」をあげました。そして「銀座には銀座のやりかたがある」として、銀座の街のアイデンティティに即した“界隈”づくり＝大人が歩く楽しさに満ちた、行くたびに発見のあるような水平的回遊空間である銀座界隈をつくっていかうと述べられました。

続くパネルディスカッション「銀座一本物に出逢う街」では、建築家の團紀彦さんが、「日本が一番大切にしてきた街並みを持っている銀座に対して、建築家でもまだまだ知らないことがある。まずこのまちがどうできたか、ということを知ることが重要。ただ建築物をつくってあげればいい、という時代は終わり、建築家のあり方も今変わってきている。そこに何を残さなくてはならないか、という判断をすることも、建築家の大切な役割になっている」と述べ、大内順子さんは、ご自身の銀座の思い出を述べた後に、「最近の銀座では何か物足りない。それは緑や憩いの空間ではないか。銀座特有の路地をもっと生かしてはどうか。一方で高層ビルの提案もあるようだが、一概にどちらが良い悪いということではなく、問題点をよく議論して銀座の新しい面をつくりだすべきではないか」と提案されました。コラスさんは、「外国人は実は東京のごちゃごちゃ感が好き。これからどうするかは難しいけれど、伝統・歴史・モダニティのバランスをキープしながらやっていったらどうか。これは法律ではなく、銀座にいる人が一緒に考えるまちづくりだと思う」と述べました。そして、コーディネーターの見城美枝子さん（青森大学教授・エッセイスト）は、「『過去の記憶』『現在の記録』『未来の予感』。この3つが文化の条件。銀座には本当に素晴らしい過去の記憶がある。この記憶を大事にし、現在、刻々とつくりあげている銀座を記録し、そして未来を予感させてほしい」とまとめてくださいました。

会場にお集まりいただいたのは約300人。銀座のみならずをはじめ、都市開発関係の企業の方々、建築や都市を学ぶ学生さん、一般の方々などです。

シンポジウム概要

「世界都市のなかの銀座」

- 10月21日
- 14時～16時（13時半開場）
- ヤマハホール

講演 「国際都市としての銀座の魅力」
リシャル・コラス

パネルディスカッション
「銀座・本物に出逢う街」
リシャル・コラス
大内順子
團紀彦
コーディネーター 見城美枝子

主催：全銀座会
銀座街づくり会議・全銀座会催事実行委員会
・銀座通連合会
後援：中央区

シンポジウムのビデオをお貸し出しします。すでに、社内研修会等にご利用いただいています。ぜひ町会や各店舗での勉強会などにお役立てください。また、テープおこし冊子も作成中です。

☎お問合せは銀座街づくり会議（上記連絡先）まで☎